

支 部 情 報

熊 毛 支 部

つながりを深め、 活力ある校長会に

熊毛支部校長会は、三町九校の校長で構成されている。年間八回の研修会を開催し、各校を会場として訪れる形で進めている。

◇校長間のつながり

熊毛郡にある小学校に共通している点は、どの学校においても保護者や地域からの信頼度が高いという点である。

ただ、町ごと学校ごとでは特色ある取組が行われており、例えば、上関町では町をあげて小中一貫教育を推進している。児童生徒の異学年交流や教員による小中学校間での乗り入れ授業等を実施している。平成二十二年度より完全複式となった田布施町立麻里府小学校では、教員間の組織力・指導力を高めることに力を入れ、複式形態による授業づくりには焦点をあて研修を深め、昨年秋季には研究大会も行われた。

こうした各町の取組や各校の経営の工夫・課題等を研修会の際に出し合い、協議を深めることにより、校長としての経営力の一層の伸長とともに、校長間のつながりを強めている。

◇三町の町教育長とのつながり

年間八回の校長会のうち、三回は各町教育長を招き、講話をいただいている。行政経験の視点から教育現場に求められるものについて、取り入れるべき先人の知恵や心構えについてなど、講話の内容は多面的に教育を見つめ直した視点からの示唆が多く、はっとさせられる驚きと刺激をいただいている。

*平成二十四年度の講話に登場した人物や著書

○佐藤一斎『言志四録』等

○元堺市教育長 野口克海

○フィリップ・チェスタフィールド

ド『わが息子よ、君はどう生きるか』

○北海道大学名誉教授 東 三郎
◇今後の研修計画について

昨年の秋季研究大会の分科会において、熊毛支部は「学校評価」に関する提案発表を行った。今年度は、学校評価に関する検証を進める一方で、平成二十六年年度に提案発表をする

「知性・創造性」に関する研修も進め、教育課程全般の編成・実施・評価・改善について研鑽を重ねたい。



（祝島小 山崎 研二）

ウイズの精神



長門市立俵山小学校長 柳 江 利 章

俵山小学校への異動の辞令を頂いた瞬間、強い意欲と若干の不安がこみ上げてきた。若干の不安とは、これまでずっと中学校教員であった私が、初めて小学校で勤務をするということであった。しかし、この不安は子どもたちの輝いた瞳を見た瞬間に吹き飛んだ。俵山の子どもたちのために軸足を常に子どもに置き、「ウイズの精神」でしっかり関わることが大切だと感じたからである。

俵山小学校は、地域との繋がりが実に強く、まさに地域とともにある学校である。地域の伝統文化である子ども歌舞伎や日本舞踊、水田耕作など、地域の教育力の下に教育活動が進められている。

私は、四月一日から俵山温泉の近くに家を借りて生活している。地域の役割もいくつか頂き、各種会議で進んで情報交換をしている。

そして夜には、日本一の俵山温泉の共同浴場「町の湯」へ歩いて行き、地元の方々との交流をしている。保護者・地域とともに教育活動を進めるということは、いかにこちらから心を開き、保護者や地域に寄り添う姿勢を示すかであり、「ウイズの精神」で接することが大切なのである。

すばらしい地域で教育活動を行うことができないことに、心から感謝である。

新校長の声



萩市立弥富小学校長 長 富 良 子

「えっ？小学校ですか？：：？」赴任地が知らされた瞬間の言葉である。これまで三十一年間、中学校勤務のみだっただけに、小学校の校長として学校を運営できるだろうか？小学生へいったいどのように話しかけたらよいのだろうか？不安でいっぱいであった。

着任すれば、毎日続々と来る校長メール、市教委からの問い合わせの電話、さらに、児童数十三名の小規模校、複式の授業実践、教職員へ指導ができるだろうか？逃げ出したい気分であった。

でも、自分には心の支えがあった。萩市は新任教頭として赴任した地域だけに知り合いや先輩の方がたくさんいる。「お帰りなさい」という言葉で迎えられる、心が癒された。と、同時に人とのつながりのすばらしさを改めて感じている。校区は、美しい山なみ、川のせせらぎ、小鳥のさえずり等、豊かな自然に囲まれている。毎朝、子どもたちの登校を校門で心待ちにして迎えている。「校長先生、おはようございます！」という元気な声、さらさらした瞳を見つめると、本当に豊かな気持ちになる。児童、保護者、教職員、地域の方との新しい出会いを大切に、自分の花を咲かせたい。